

京都教区時報

新シリーズ — 国際障害者年・ミサ
小教区の頁 — 高野教会

第71号

発行所

京都市中京区河原町三条
カトリック京都教区
広報室(Tel 211-3768)
編集責任者 村上透磨
編集部 教理センター
田中司教認可

ベンベヌート・パパ！（ようこそ・パパ様）

教皇来日 2月23日～26日



パパ様がおいでになる、この音が日本中をかけめぐり、すべての人々が興味と関心をもつてこの平和の使者を待ちわびている。教皇は平和の使者としておいでになるだろう。平和はキリスト者の心であり、救いの内容であるが、それは又すべての人々への福音でもある。

私はこの平和の使者(キリストの代理人)

特に取り上げられ、眞の自由が犯される事によつて平和があやうくされている事、然し勇気をもつて、平和は可能だと信じて平和実現のため、特に眞の自由のために戦うべき事を訴えられた様に思う。平和のために愛と正義が必要な事は勿論の事であるが、自由特に信教の自由を束縛され、迫害されながら信仰を守り通して来られた教皇様にとってそれは切実な問題であつたろう。

(サンケイの教皇特集に教皇の十の新しさと云う事をあげていたが、

現教皇の特筆すべき特徴と云えば、

一、イタリア人以外のしかも共産圏の国から出て来られたと云う事である。それは戦争の空襲で破壊されつくした荒地から若花が生まれて来たと云う様な驚きと喜びを与えるだろう。信仰の力強い芽は思わない所にすでに芽

はえていると云う希望のしるしである。

二、旅する教皇。それは就任以来相次いで行われた、各国への訪問であろう。教皇はすべてのパパである事、特に「小さな人々」に対して良きパパたらんとしていられる事である。

三、その若さである。初めて眼鏡なしで、教書を呼んだ教皇。とジャーナリスチックに取扱はれていたが、それは若さのしるしであらう。

を單なる興味と関心だけで待つのではなく、祈りと回心の心を持つて待とう。回心とは、心の貧しさの事である。それは謙虚さによつて深く開かれた心であり、そしてその思い切り開かれた心に愛と従順、委託と勇氣とによって満たす事である。祈りは更にその心を、その豊かな恵みで満たすであろう。

教皇は元旦の教書の中でヨハネ二十三世が云われた平和の四つの柱の中、自由について

薄くものである様、心の底から祈りたい。

祈りこそ最大の歓迎であり、力強い支えであり、良き働きへのエネルギーである。

教皇の旅が、すべての人々の心に良き種を



教区短信

▽2月16日(月)

邦人教区司祭月例会

▽2月18日(水)

長崎殉教者列福式

(於・マニラ)

▽2月20日(金)

聖ベルナデッタ祭

(聖母学院)

▽2月23日(月)～26日(木)

教皇訪日

▽3月2日(日)

京都教区司祭評議会

▽3月4日(火)

日本宣教司牧セントラル理

事会(東京)

▽3月12日(木)

ノートルダム女子大卒業

式

▽3月15日(日)

レジオ・マリエ・アチエス

▽1月16日(金)

諸宗教会議(京都)

▽1月19日(月)

邦人教区司祭月例会

▽1月20日(火)

諸宗教会議(東京)

▽1月20日(火)～21日(水)

東京神学院委員会

▽1月25日(日)

京都教区臨時司祭評議会

▽1月26日(月)

京都神学院委員会

▽1月27日(火)

京都教理センター理事会

▽2月1日(日)

日本26聖人記念ミサ

(京都)

折り

懇親会は、約80名の出席のもとに、11時共同司式ミサをもって始められた。

ミサ中、田中司教は、共に御国発展のための道具として派遺されているものが、共に会し祈る喜びを述べて後、70年代はアジアに特に目が向けられ、そのアジアの6つの顔と云つたものを去年の新年会で指摘した事を思い起した。

80年には自分にとって三つのニュースをあげれば、(1)ビジョン作りとの取り組み、(2)ローマ訪問、(3)年末に風邪をこじらせた事である。

ビジョン作りについては、現場の事情もよく理解せず、又方法的にも問題が確かにあったが、とにかくあの様な形で意識が投げ込まれたのは一つの前進であった。教皇訪日について。その目的は小数者の我々キリスト者のためより、全日本人のためである。世界共同体の中で仲良く連帯性をもって歩んでいける様に教皇は巡礼しておられる。震え慄く程の虚偽に満ちた現代に信仰のありがたさを示す事である。更にキリストのビジョンを生命がけで燃焼させ、特に貧しい人、小さい人に完全燃焼の日々を作り上げていく事である。この教皇と共に我々は、公現のしるし、道具に召されている。キリストの奉仕に召されている。

元旦の教皇メッセージで、平和の四つの柱の中特に、自由について述べられたが、教皇と共に平和は可能だが、そのため努力が必要である事を想起そう。更に昨年のアジア司教代表者会議で指摘しているが、教皇と共に平和は可能だが、そのため努力が必要である事を想起する。

摘要された事であるが、アジアの教会の心は祈りであり、祈りを通しての改心と刷新をめざすべきである。

更に教会の務めは、秘跡化だけでなく、社会の福音化でありその様に信徒を養成する事が大切であろう。と云つた主旨の話であった。

話し合い

続いて六階会議室において、司祭団としてのビジョン資料提供が、四団体、二師よりなされた。要旨は次の通り。

▼一 真のキリスト者の養成

司祭修道士懇親会

1月4日 河原町
於:

(1)個人として……家庭、職場、学校、地域、アジアの一員として夫々の出来る役割を見つけ実践していく。

(2)共同体として……小教区の行事の消化で終らせ、地域に開かれ、地域の要望に応えていく。(例)おもちゃライブラリーよりなされた。要旨は次の通り。

▼一 真のキリスト者の養成

(2)この人々との継続した関わりを通して、学び成長する(以上邦人グループ)

▼4教区として、信者達の年一同必ず大きな集会をする(例えは聖体大会、司教や他の教区の指導者の話し)

5行事の簡略化と集中化。会議、練成会共に集い又祈る事により信仰を深める。

6信者、修道女達がますます典礼の責任の一部を受けもつ事が出来る様に育成する。年中行事が多すぎては散漫になるため。

7学校教育において、信徒の子弟を指導するだけではなく、キリスト教的人生観を持つ将来の指導者育成をめざす。

8特殊性の為省略(以上ヴィアトール)そしてその養成の段階を重んじる。例えば、イグナチオは次の様な段階を考える。(1神に愛されている自分に気付く。(2罪人である自分の自覚。それでも神に愛されていると云う体験。3共にいる様にその主の招きの体験。

9会員の生き方の質素化

10邦人キリスト者と共に、今日の日本に相応しい教会のモデルを見出し、その実現化に努力する(地域教会との協力)

11キリスト者、善意の人々のグループが個人、又社会の中の問題に応ずる様に、活気づける手段方法を見出す(社会問題)の中に神の愛を体験する様にする。

12信者の特性に色づけられる様活気づけ(主に聖書研究、キオカテクメナー、マリージエンカウンター、青年エンカウントー)信徒養成コースへの積極的参加。

13日本の文化、宗教的伝統の中に現在する神の国を見出し指摘告知する(土着化)

▼次にマリスト会

14新しい芽はえがあり、聖靈の御手の中にある自分達を見ている。信徒の司祭的役割の時が来つつある。そのため信徒の養成が聖靈の導きによつてなさるべき。

15本物のキリスト教の信仰生活(キリスト中心に改心とキリスト(委託の生活)を見出し使徒精神の推進させるための具体的な取組)司牧委員会を設立。信徒セミナー聖書普及分ち合ひ等。又子供の宗教教育推進手段としての父兄会設立。地方信徒のためミサ参予する機会を与える。

16余りしていない事に目を向ける。(個人的使徒職、社会の中での福音化、福音宣教についての各自の責任感)

17次にアルミニセン師個人の意見として、次にアルミニセン師個人の意見として、

18司祭相互、修道者相互、信徒相互、グループ相互の愛と理解に根ざした取組み

19諸宗教との取り組み

20ビジョン作りより小教区作り。

21会はアカペ(会食、愛)をもつて終了する。

ウォーカソン

愛の募金各団体へ

ウォーカソンによって集められた募金

総額150万600円は次の所に送りました。皆様の御協力を感謝いたします。

△カンボジア難民救援会55万円
△ネバール・カトマンズ精神薄弱児施設

(責任者 アダム・グロムスキード) 47万300円

マインドカルカツタ神の愛の宣教会施設
少年の家(プラザー・ジエームス) 48万300円

こちら歩く十析る

プレイヤーリン

ウォーカソンも今年は多くの参加者と

募金を集めたが、歩くだけではなく、教会で祈りを捧げるプレイヤーリンが12月17日に行われた。これは、ノートルダム女子学院の高三Vクラスが行つたもので、全クラスが実行するクリスマス奉仕活動の一つとして計画された。スポンサーからお金を集めることを決意した。方法はウォーカソンと同じだが、コースである河原町、北白川、高野、小山教会で山谷、釜ヶ崎の人々のために祈りが捧げられ



10月19日から24日まで、関西セミナー、ハウスに於いて、リン兄弟(イエズス会司祭)の指導により、この黙想会が行われた。出席者は小林司教と80名の司祭、3名の修士、同時通訳の一信徒、シスター(ピアノ担当)が出席した。

二人の兄弟は「いやしの祈り」で、数年

前から、有名になつてゐる司祭である。効果的な祈りをするには、まず教しが必要である。相手の距離や祈りの文句より愛する心が大切である。又死者のために祈る事が大切であり、これは先祖を尊ぶ日本人の心にそつたものである。

黙想会の頂点は木曜日の晩、西陣教会

で行われた「いやしの祈り」であった。40年前この教会の主任司祭であった、小林司教の主式により約90名の司祭を中心

にした祈りであった。ミサ中病者の塗油の秘跡が病人に授けられ、握手と莊嚴な祈りの中に祈つた。この黙想会のため、折つたり、断食したり又寛大な寄付によつて、精神的にも経済的にも支えられるか、子供にはどのようにかかわるべきか、という研究結果が発表された。親自

身が、召命について深い関心をもち、司

受験をひかえた時期にもかかわらず、クラスの半数近くの参加者がおり、参加できない者は、スポンサーとして協力した。寒空の下、その歩く姿には、体を使つて人に尽すことの喜びがあふれていた。

マインカルカツタ神の愛の宣教会施設
少年の家(プラザー・ジエームス) 48万300円

「ふるさと食堂」へ送られた。

司祭のためのカリスマ的黙想会

カリスマ的黙想会

10月19日から24日まで、関西セミナー、

ハウスに於いて、リン兄弟(イエズス会司祭)の指導により、この黙想会が行われた。出席者は小林司教と80名の司祭、3名の修士、同時通訳の一信徒、シスター(ピアノ担当)が出席した。

二人の兄弟は「いやしの祈り」で、数年前から、有名になつてゐる司祭である。前から、有名になつてゐる司祭である。

3名の修士、同時通訳の一信徒、シスター(ピアノ担当)が出席した。

二人の兄弟は「いやしの祈り」で、数年前から、有名になつてゐる司祭である。

二人の兄弟は「いやしの祈り」で、数年前から、有名になつてゐる司祭である。

呼ばれています 神に

奈良県司牧評議会

奈良県では十年ばかり前から、司祭、修道女、使徒が一堂に会して、一年に一回位の割合で、司牧評議会が開催されて

いる。今年度も、昨年十一月三十日、登美ヶ丘教会に約三百人が集まつて開かれ

た。当日同教会で堅信式があり田中司教

様が出ておられたので、初めて、司教様の御臨席を得、花が添えられた。

本年のテーマは次の四つであった。

(一)召命の促進 (二)中高生と教会 (三)教

会学校 四小教区財政

これらのテーマに、一昨年十二月以来

各小教区ごとに、各司祭の御指導を得な

がら信徒や修道女が討議に参加して來た

のであって、この日は、各テーマごとに

予め定められていた幹事教会の信徒によ

つてとりまとめられたものが発表された。

その発表に對して、出席していた司祭、

修道女、信徒から活発な發言が相つた。

司教様のアドバイスなどもいただきなが

ら、予定時間をはるかに超過し、(三)四の

テーマについては発表だけに止めなけれ

ばならなかつた。

召命の促進というテーマでは、召命は、

神様と召命の環境をつくる親及び聖職者、それに召命を受ける本人の子供との

かかわりであるという根本的なとらえ方

の上に立ち、どのようにして環境をつく

るか、子供にはどのようにかかわるべきか、という研究結果が発表された。

殊に意義深い半日であった。

(奈良教会 岩井洋)

司教の足どり

十一月～五十六年一月

- 11月
16日④富雄教会堅信ミサ。亀岡教会信
徒団と面談
- 17日 教区付邦人司祭月例会
（仁大学）
- 18～22日 FABC諸宗教会議（台北・輔
堂ミサ。ビジョン連絡会）
- 23日④京都教区創立記念日。司教座聖
堂ミサ。
- 24日 古屋司教の風邪見舞
- 25～29日 司教協議会総会（東京）
- 30日④登美丘教会堅信ミサ。奈良県司
牧評議会総会。
- 12月
1日 こひつじの苑代表と面談。小さ
い姉妹の友愛会ミサ
- 2日 デ・モンティニ師と面談。（欠・J
MPC東京）
- 3日 教区事務局会議
- 5日 小山教会代表と面談
- 6日 ウィチャの聖ヨゼフ会総長來訪
委員会、同広島会議、大和八木
堅信ミサ、邦人司祭月例会）
- 7～17日 体調不順のため休養。（欠・教理
センター理事会、教皇歓迎実行
委員会、同広島会議、大和八木
堅信ミサ、邦人司祭月例会）
- 17日 平間師命日墓参。（欠・信徒使徒職委）
19日（欠・司教特別会議）
- 21日①精華教会30周年ミサ。修女連代
表と面談
- 22日 スペール会代表來訪。神学生志
願者Y君と面談
- 23日 デュマス師（MM）來訪（衣笠教

会主任のため）

教皇訪日日程

- 24日 来客多数。クリスマス深夜壯嚴
ミサ。
- 26日 病床の青木氏、教区顧問弁護士）
に聖体授与。信愛幼のシスター
教職員合同ミサ
- 28日④花井師と面談（教皇歓迎実行委
の補佐）
- 29日 教皇歓迎京都事務打ち合わせ会
大神学生達省來訪。初詣の準備
状況視察（市内若干の有名神
社仏閣）
- 31日 2月25日④東京・広島・長崎
—若人のつどい—
- 1月
1日 正月元旦ミサ。（世界平和祈祷会）
修道者、神学生新年ミサ懇談会。
英五郎氏帰天。
- 4日④河原町ご公現ミサ、弁護士青木
英五郎氏通夜
- 5日 司祭評定例会議。教区内の司祭
修道者、神学生新年ミサ懇談会。
英五郎氏帰天。
- 6日 M.M管区長顧問団と会談。SS
N.D終生誓願式（M・ボーラ岩城）
(青木英五郎氏葬儀ミサ・古屋
司教式)
- 8日 パチカン展担当大司教団來訪
聖母訪問会代表と面談。府庁閲
係課へ新年の表敬訪問
- 9日 「五天」代表來訪。西本願寺情
講師 三菱電機通信部研究員
○公教理
- 11日①上智大学東洋宗教研究所長と面
談。河原町教会典礼部新年会
報部長來訪
- 12日 修女連代表と面談
- 13日 司祭評常任委
- 2月23日④東京着
○聖職者のつどい（東京カテドラル）
○司教団との会合（教皇庁大使館）
2月24日④東京
○諸宗教代表者のつどい
○エギュメニカルのつどい
—キリスト教各派代表のつどい—
○教皇ミサ（後楽園スタジアム）
○ヤング・アンド・ボープ大集会
○信徒代表のつどい（東京）
○原爆慰靈碑訪問（広島平和記念公園）
○長崎へ出発
○教皇ミサ（浦上天主堂）
2月26日④長崎
○聖職者のつどい（浦上天主堂）
○教皇ミサ（松山陸上競技場）
○ローマに向けて出發
○お知らせ
吉田学生センターでは、学生対象に次
のような「大学講座」が開かれています。
○マイクロコンピューター講座
○医学入門講座
- 世界史 哲学を根本的に理解できるテ
ーマから出発し、一般教養への関心を
ふやし、更に専門的な倫理学への導入
を経て、受洗へと導く。

製菓材料・舶来食品
和洋酒・修道院製クッキー
ミサ用ブドー酒

タキノ

〒604 京都市中京区錦小路通烏丸東入
電話 (221) 0976-7

永久保存版

教皇訪日公式記録集
ヨハネ・パウロII世

3月中旬刊——予約受付中

A4判／極上製／箔押し・箱入り

●予約特別定価5000円

●定価6500円

主婦の友社刊

（2月末日まで
お申込込みます）

祝教皇訪日

オベラグラスで
教皇スマイルも あなたのもの！

ニコン双眼鏡

9×25 C F ¥14,000

8×20(カルナ) ¥23,000

9×30 DCF ¥35,000

視力瞳眼鏡店

〒602 京都市上京区河原町荒神口上ル
電話(075)231-6867

シリース 第一回ミサミサ 生きる

ミサが私達の信仰生活にとって最も重要なものである事を私達誰もが気付いている筈である。司教もその最初の四旬節教書の中で、教区共同体建設の三つの柱「みことば」「ミサ聖祭」「相互愛」を強調された。然し私達はこのミサの持つ意味を十分理解し、生かしているであろうか? ビジョン作りが進んでいる時と併行し、この教会生活、つまり救いと修徳の道において最も重要なこのミサについて今年一年特集をくみたいと思う。

読者の忌憚のない御意見も期待している。

一、生活とミサ。
そんなんもの関係ない。

でもちょっと待って

①まず公会議に耳を傾けよう。

典礼憲章10では、次の様に述べている。「典礼は教会活動が目指す頂点であり、同時に教会のあらゆる力が流れ出る源泉である。それは使徒的な働きの目指すところが、総ての人が信仰と洗礼によって神の子となり、一つに集まつて教会の中である。それは使徒的な働きの目指すところが、総ての人が信仰と洗礼によって神自身は、復活の諸秘跡に満たされた信者が「愛をもつて一つに結ばれる」様に励まし「信仰によって知った事を、生活に於て保つていく」様に祈る。又聖体祭儀によって行なわれる、主と人々との契約の更新は、信者をキリストの迫まる愛に駆り立てて燃やすのである。だから

あなたも源泉からの如く、典礼、主に聖体祭儀から、我等に恩恵が注がれ、キリストにおける人間の聖化と、神の栄光が最も効果的に得られる。この神の栄光こそ、教会の他の全ての働きが目的として目指している事なのである。

②月曜から土曜日のミサ

(浜尾司教講演から)

信徒の本領は：第一義的には生きている場の家庭と、働いている職場にあります。ですから、教会は月曜から土曜日が勝負なのです。月曜日から土曜まで：そこに教会があるかどうか：月曜日を盛んにするよりこちらの方が重大です。信徒の教会事業や典礼の参加がすばらしい事ですし、必要な事です。信徒使徒職とは、まさに家庭と職場を福音化する事です。そのため日曜日の集いなり、教会への集いが絶対に必要となってくる。と云う信徒になる事、そこに司牧者も全力投球すべきだと思います。

月曜から土曜まで、特に日本の社会の中での、職場などで福音化する事は、不可能に近いくらいです。その中でそれを福音的にしようなどと云つても生きていられません。そこでキリストや仲間を必要とします。普段自分がかかわっている職場の仲間の重荷、苦しみ或いは我が家の重荷を背負つて日曜日に来て、仲間と一緒にパンとぶどう酒のもとにイエズス・キリストの御体と御血を受ける。

イエズス・キリストと一緒に又家庭に、職場に出かけて行く、と云うのがこの日曜と月曜、土曜のリズムだと思うのです。

ここにある。そこの主任神父は、信者が毎日教会へ来なくとも、その一人一人が福音宣教に頑張る様に、ミサを一人で捧げ、それが正しい司牧者の祈りではないでしょうか? こゝに強調される月曜から土曜のミサ(教会)がまさに云われた時、もはや何の誤解も錯覚もない。

月曜から土曜のばらばらに散つてゐるところにある。その主任神父は、信者が毎日教会へ来なくとも、その一人一人が福音宣教に頑張る様に、ミサを一人で捧げる、それが正しい司牧者の祈りではないでしょうか? こゝに強調される月曜から土曜のミサ(教会)がまさに云われた時、もはや何の誤解も錯覚もない。

2月20日である事が聖体を通じて行われる時、もはや何の誤解も錯覚もない。

またかも源泉からの如く、典礼、主に聖体祭儀から、我等に恩恵が注がれ、キリストにおける人間の聖化と、神の栄光が同じく、仕事では、肉と血の外形のもとに同じキリストを見出す：質しい人にづいてこう云われる「私は飢えていた。裸だつた、病氣だつた。家なしだつた」と。バウロがいみじくも云う「私の中に生きてているのは私ではなくもはやキリスト(2月20日)である」事が聖体を通じて行われる時、もはや何の誤解も錯覚もない。

またこの時、「私達が神の内に生き、動き、存在する(使17・28)」を体験する。

ミサ聖祭を通じて実現する私達の生活はまさにこの様を一致であつて、私達の日常茶飯事、一挙手一投足、一呼吸一呼吸が、神のそれ、少くとも神的なものとなる筈である。この事が意識され始めた時私達の生活はたゞ生きているだけではなく精神的に生きている事になる。こうして、
「キリストの様に考え、話し、行い、愛そう。力の限り」と云う歌が生きたものとなる。又そこに「何事をなすにしてもしきりに神の栄光のためにし」(コ前10・31)又神のみ旨を求める(例ヨ8・29・14・16)生活が生きたものとなる。

「生きる」についての憶え書

M. その為毎日をミサで始めるのですね。マザー、キリストと聖体の秘跡からです。M. みなさんのしている事の原動力、燃える火、力はそこから来る訳ですか。マザー、キリストと聖体の秘跡からです。M. みなさんのしている事の原動力、燃える火、力はそこから来る訳ですか。

「生きる」生命とは神の息である(創1:2)神の愛の躍動である(注日本語も息一生)漢字では新芽が土から出る様を現わす、「活」は生き生きと水が流れる様を現わす

いたゞく。仕事では、肉と血の外形のもとに同じキリストを見出す：質しい人にづいてこう云われる「私は飢えていた。裸だつた、病氣だつた。家なしだつた」と。バウロがいみじくも云う「私の中に生

きてているのは私ではなくもはやキリスト(2月20日)である」事が聖体を通じて行われる時、もはや何の誤解も錯覚もない。

いたゞく。仕事では、肉と血の外形のもとに同じキリストを見出す：質しい人にづいてこう云われる「私は飢えていた。裸だつた、病氣だつた。家なしだつた」と。バウロがいみじくも云う「私の中に生

きてているのは私ではなくもはやキリスト(2月20日)である」事が聖体を通じて行われる時、もはや何の誤解も錯覚もない。

いたゞく。仕事では、肉と血の外形のもとに同じキリストを見出す：質しい人にづいてこう云われる「私は飢えていた。裸だつた、病氣だつた。家なしだつた」と。バウロがいみじくも云う「私の中に生

きてているのは私ではなくもはやキリスト(2月20日)である」事が聖体を通じて行われる時、もはや何の誤解も錯覚もない。

いたゞく。仕事では、肉と血の外形のもとに同じキリストを見出す：質しい人にづいてこう云われる「私は飢えていた。裸だつた、病氣だつた。家なしだつた」と。バウロがいみじくも云う「私の中に生

きてているのは私ではなくもはやキリスト(2月20日)である」事が聖体を通じて行われる時、もはや何の誤解も錯覚もない。

いたゞく。仕事では、肉と血の外形のもとに同じキリストを見出す：質しい人にづいてこう云われる「私は飢えていた。裸だつた、病氣だつた。家なしだつた」と。バウロがいみじくも云う「私の中に生

きてているのは私ではなくもはやキリスト(2月20日)である」事が聖体を通じて行われる時、もはや何の誤解も錯覚もない。

京都教区時報

小教区の頁

高野教会



京都市の中心をやや東にはずれて南北に流れる鴨川が出町を分岐点として賀茂川と高野川とに分れるが、その高野川に沿つて遡ると往時の京の都の北辺を東西にはしる北大路通りと交差する。ここにあるのが高野教会でこの地を中心に左京区一帯に布教戦線を拓げている。従つて町全体が市外にのびた現在でも、京都のこの教会に赴任して満三年になる。最近になり漸やく信者さんの名前と顔が一致するようになってきた。それだけ所属信者のことがわかつてきた訳である。私の従来の念願は絶えず信者さん達と共に布教し、絶えず新受洗者を儲けて信者共同体の中に絶えず新鮮な空気を注入したいということである。それは信者数の増加ということよりも、新らしい息吹を從來の信者的心に注ぎ込みたいからである。新らしい水が流れ込まない沼の水はやがて腐つて「死の沼」となる。同じように常に新信者を迎える、新らしい靈が兄弟を迎えない信者共同体もやがて淀

きわめて清澄で比較的の峯を指呼の間に望むことが出来る。扱この教会の創立は遠く戦前に遡る。當時小山初音町に借家住をしていた京都教区の初代教区長の故バーン司教により設立されたもので、最初は九〇〇坪の敷地の一隅に二階が司祭館、一階が聖堂という一棟だけの建物であり戦時は同師の軟禁された場所でもあります。師が司祭としてローマ教皇の韓國駐使節となられるまでこよなく愛し住んでおられたところである。従つて洗礼台帳の第一号は一九三八年(昭十二)九月十一日「小山小聖堂にて授洗」となっている。戦時には教会内敷地の芝生は消え甘諸煙として軟禁中のバーン師が余暇を利用して耕しておられた。

戦後信者求道者の増加に伴ない、一九四八年(昭廿三)に現在の聖堂と第一伝道

んで生氣を失つてしまう苦である。だから私は所属の信者のひとりひとりが一年に一人の求道者を連れてきて、その人が受洗するように面倒をみてくれることを熱望している。もし信者各位がこれを実

現するのである。そんなわけで信徒使徒の信者の特徴は非常に布教に対し熱心で布教活動をあらゆる行事に優先させて

いることである。そんなわけで信徒使徒の組と既婚婦人の組それに未婚女性の組の三つがあり、そのエネルギーの大半を直接、間接に布教に関係することに注い



靈的な活力

行してくれたらその人自身が靈的に活力をもつてあろうし同時に教会全体がハッラツとなってくる筈である。司祭が只一人布教に努力してもその成果は僅かなものでしかない。次に私はどんなに熱心に

中心部に比して郊外めいており、空気はきれいで清澄で比較的の峯を指呼の間に望むことが出来る。扱この教会の創立は遠く戦前に遡る。當時小山初音町に借家住をしていた京都教区の初代教区長の故バーン司教により設立されたもので、最初は九〇〇坪の敷地の一隅に二階が司祭館、一階が聖堂という一棟だけの建物であり戦時は同師の軟禁された場所でもあります。師が司祭としてローマ教皇の韓國駐使節となられるまでこよなく愛し住んでおられたところである。従つて洗礼台帳の第一号は一九三八年(昭十二)九月十一日「小山小聖堂にて授洗」となっている。戦時には教会内敷地の芝生は消え甘諸煙として軟禁中のバーン師が余暇を利用して耕しておられた。

館とが建てられ、最近第三伝道館や正門人口の受付所などが加えられた。
現在の信者数は一九七九年未の統計によれば総数四〇三人(実数三八八人)となつてゐる。信者の職業は大半が官公吏やサラリーマンである。壯年会や婦人会は割合に充実しており自發的に年間行事をこなしている。只教会の将来を担うはずの地元出身の青年層が薄く、青年会員の大半が他所から京都の大学へ遊学している大学生で、卒業と同時にこの地を立ち去つて行くのが悩みである。この教会の信者の特徴は非常に布教に対して熱心で布教活動をあらゆる行事に優先させて

いることである。そんなわけで信徒使徒の組と既婚婦人の組それに未婚女性の組の三つがあり、そのエネルギーの大半を直接、間接に布教に関係することに注い

ている。

九山吉高神父(高野教会主任)

行してくれたらその人自身が靈的に活力をもつてあろうし同時に教会全体がハッラツとなってくる筈である。司祭が只一人布教に努力してもその成果は僅かなものでしかない。次に私はどんなに熱心に

毎日朝夕祈り又主日のミサに出席していく。うち洗礼を受けたとしても祈らない信者や主日のミサに来ない信者は間もなくよう注意している。たとえ感激の涙のうちに洗礼を受けたとしても祈らない信者や主日のミサに来ない信者は間もなく高野に本部をおき、子羊の友の会と共に着実な歩みを続けている。

高野教会から目と鼻の距離にある司教ハウスには引退されたとは言ひながら譲ったる古屋司教がおられる。多くの信者にとつて主日折々に司教のお説教が聞けるものもうれしい特典である。

伝統ある信仰に加えて刷新の精神も旺盛であることが当教会信徒の間に伺える。

昨年から始まった教区内の信徒使徒職養成コースの参加者も既に數名。その他マリックエンカウンター、CLC、正義と平和活動等実際の使徒職活動に目覚しく活躍する信徒は枚挙にいとまがない。



'80年代教会は

現代社会の中に生きる教会

滝野 正三郎

現在、京都教区では、信徒の組織化が進められている。また一方、教区のビジョン作りが進められている。この二つの動きをどのように受けとめたらいいのだろうか。

王が去り、長島が退いた80年。スポーツ界の一つのよき時代の幕が下りたように見える。しかし、「世代交替」はスポーツ界に限らない。どの組もビチビチした若い命の登場を待ちうけている。教皇訪日にあたって、ヤング・エンド・ボープがプログラムの一つとして放映されるのも、教会がその例外でないことを語る。ブラン管に送られるであろう教皇と若者の映像はさておいて、あなたの教会の若者達に、暫らく心のTVカメラを見てみてほしい。一体いくつの教会が自信をもつてレンズいっぱいの若者達を把

組織化については、教会として何かをするというよりも、教会に来ている人々を組織に組みこむといった姿勢がみうけられる。それに対して、ビジョン作りは、第二バチカン公会議以後の教会の姿勢を反省して、今我々が何をなすべきかといったことを探そうという試みである。

信徒の組織化そのものは、第二バチカン公会議の信徒使徒職の具体化としての動きであったはずである。しかし、実際にには、組織化そのものが目的になってしまったよう気がする。

もし、ただ単に組織化だけを目指したものだとしたら、むしろ、教会の動きを封じてしまうことになる。組織化のためには時間と、力をついやすことによつて、

理されてくると思う。そうした動きをすすめていく上で、どうしても組織が必要であれば組織を作れればいいし、もし、かえつて邪魔になるとしたらあまり組織にこだわらないようにはできない。そのためには組織ではない第一バチカン公会議の反省は、教会が今まですればよい。

教会といふものは組織ではない。第一バチカン公会議の反省は、教会が今まで

えることができるか生き生きした「ヤングのドキュメンタリー」が綴れるか。彼等が彼等らしく高吟放歌し、若きキリスト者として熱く語りあう場があなたの教会のどこにあるか、空飛かも知れない、理想に走り過ぎているかに見える彼等の

生みつぱなしの無責任母親

親と同じように生みつぱなしになる。Y

ーひとことー

プランに耳をかし、勇気づけのことばが送れる人があなたのまわりにいるか。

今時の若い者は「式メンタリティは

キリストとの出会いを持たぬ人の古口上。

年の甲と社会生活経験で、大方のこと

使命を忘れさせはしない。

(Y)

組織としての機能を大切にしきぎで、そのためには、現代の社会に適応しなくてはならないことであつたはずだ。そのためには、教会というものをもう少し広く受け取らなければならない。たとえ少数の人達のグループであつても、もし、彼らが真に社会の福音化のために努力しているとしたら、それを無視することはできない。

もし、彼らの動きを無視していくとしたら、教会は現代社会に適応できないものとなつてしまい、何の魅力もないものとなる。

いろいろな人達の意見が、ビジョンの中に入れられることが必要である。しかも、現代社会に通用するビジョンを作らなければならぬ。

この意味でも、教区のビジョン作りをすすめる中で、第二バチカン公会議の反省を生かしていくようにならねばならない。

◎ピヨ子が生まれ出ようとする時、外からは親ドリが、内からはピヨ鳥が、くちばしでからをたたき合うという。私たち若者も、ひとりよがりではなく、からを両方からつつき合つて新らしいものを生む必要があるのではないかしら。

◎年を重ねると、頭の皮も心の殻もかたくなつてくる。新しい善いものは常に軟かい皮の者から生れる、私も裸心になつて、ものの核真を探らせて貰う。若い人達と共に。

大島重良(西陣)

草川典子(大津)

「今年は、国際障害者年、あなたの方の年ですね。子羊会は障害者年になにか新しい計画がありますか」と、よく聞かれます。そして、私は「そり、国際障害者年はたしかに障害者私たちの年です。でも、あなたの方の年でもあるのよ。一緒に『完全参加と平等』のテーマによりくまねばにも出来ませんものね。よろしくね。それから子羊会のことだけど、今のところ『国際障害者年』に豊かな実りをもたらす方向を、会員の毎日の祈りに加えますけどそれ以外きめていません。なにかすることになるかもしれないけど、これから十年間ですものね」と、こたえる。

勿論、これ丈でいいと考えているわけではない。でも、今年は、五月に子羊会創立二十五周年の感謝の集いをする予定がある。また、八年前、子羊会の提案で始まった。誰でも乗れる地下鉄にする運動も、「誰れでも乗れる地下鉄にする運動協議会」の尽力で実り、今年

この小さき者よ 国際障害者年に思う

伊達 よしえ
子羊会

開通する京都の地下鉄に四つの駅丈とはいえ、エレベーターが設置され、車椅子の人も利用出来るものになつた。何れも子羊会への障害者年のスバラシイプレゼントである。

考えてみれば、子羊会にもやりたいこと、やらねばならないことがいっぱいあります。先づ、会員との障害者年の意義を正しく理解してもらわねばならないし、何よりも寝たきり障害者の友に、それで社会人の完全参加の道がそれぞれにありますことを知つてもらわねばならない。さらに車椅子と仲間の会の呼びかけで参加した、人間性を無視し障害者を拒否しているような京都駅前地下街ボルタを考える会の運動にも協力したい。子羊会の出来る方法で――。

子羊会員のさきげる祈りは小さい、目にも見えない。だが、人々の生命の水、大地をうるおし、みどりを育てる地下水のような役目を果せるのではないか、静かに地下を流れる清流な水、その水のようになりたい、そういう社会参加もあることを自覚し、障害者年に背をむけている人とよろこびを分ちあいたい。

国際障害者年。この言葉は、最近、新聞で登場しない日はない。だからこれまで障害者問題にあまり関心のなかつた人々も、今年が障害者年であり、障害者の為に何かしなければと、考えてはおられるようだが、果してどれ大の人が

し、そのテーマを、障害者の「社会への完全参加と平等」としたのは、障害者の問題を、あわみや温情でとらえるのではなく、人権の問題として考えねばならないと、障害者の権利を正しく理解する

ことを大切を、すべての人々に認識させ、各国が、これまでとてきた障害者に対する施策の見直しと、対策の考え方を国際規模です、めるためであった。

そのテーマ、障害者の「社会への完全参加と平等」は、簡単にいえば、障害者も、健康者と同じように、社会、市民生活がおくれるよう、これまでのそれをはんだいた社会のしくみ構造を正し、社会の発展とともに利益の分配も他の市民と平等にわけられねばならないという

こと。つまり、障害者にもっと就職の門を開き、税金によって建設される交通機関等もどんな障害者にも利用出来るものにしなければならないということである。

私たちがこれまで障害者問題を温情的にとらえていなかつたといえはうその間に、しかし決してそれ丈ではなかつた。障害者の権利を大切にすること丈で問題は解決するだろうか。人間として温情の思ひやり優しさも権利を正しく理解すること同様に大切である。

また、権利には義務と責任がともない、

権利は自分たち障害者に丈あるのではなく、自覚しなければならない。社会への完全参加と平等は、障害者に貢献を求めるものであることを忘れてはならないと思う。

時報が対話おう書く
の手段なら
者も読む者
は「互いに
も、投稿者
も編集者も。

◆ババ様に会いに行くの?。いかん:つもり:どうして、アマノジャク!

それよか柱のかげで折りたいわ! まあええかっこして。でもね心配やな、無事に過していただきたい。本当に(M.T.)

◆最近、英文化タイプなるものを「独習」しています。これは、今までの目標である英語の勉強に役立てば、と考えています。

◆減量其々どうなりますことやら。(ア)ババ様訪日とあつて津々浦々でんわやんやの観。福音を伝える為の訪日なら地元教会日本は頭をクールにして「福音を伝える」ことを眞面目に考え実行に移すことですね。歓迎に浮かれる足を地につけ(Y)等」を目標にしたい。(き)

◆今日orあしたということばが好きです。出足はよくありませんが「完全参加と平等」を目標にしたい。(き)

◆「国際障害者年」で染まりそうだ。

◆ババ様訪日とあつて津々浦々でんわやんやの観。福音を伝える為の訪日なら地元教会日本は頭をクールにして「福音を伝える」ことを眞面目に考え実行に移すことですね。歓迎に浮かれる足を地につけ(Y)等」を目標にしたい。(き)

◆明日orあしたということばが好きです。昨日迄の酷い私は死に、あしたこそ美しく精一杯その日を過ごしたいという願いをこめて、明日という日を待つ。(I)

◆向にもしないうちに今月の時報が出来上がっていた。他の編集諸子に賛美。

今年の指針。始めよければすべてよし。

始めが悪くても、あとは努力次第。(J)

◆近所、お友だちにもお見せ下さい。

本紙を福音宣教に役立たせるため、



時報が対話
おう書く
の手段なら
者も読む者
は「互いに
も、投稿者
も編集者も。

◆ババ様に会いに行くの?。いかん:つ
もり:どうして、アマノジャク!

それよか柱のかげで折りたいわ! まあ
ええかっこして。でもね心配やな、無事
に過していただきたい。本当に(M.T.)

◆最近、英文化タイプなるものを「獨習」
しています。これは、今までの目標である
英語の勉強に役立てば、と考えています。

◆減量其々どうなりますことやら。(ア)
ババ様訪日とあつて津々浦々でんわや
んやの観。福音を伝える為の訪日なら地
元教会日本は頭をクールにして「福音を
伝える」ことを眞面目に考え実行に移す
ことですね。歓迎に浮かれる足を地につけ
(Y)等」を目標にしたい。(き)

◆今日orあしたということばが好きです。
出足はよくありませんが「完全参加と平
等」を目標にしたい。(き)

◆「国際障害者年」で染まりそうだ。

◆ババ様訪日とあつて津々浦々でんわや
んやの観。福音を伝える為の訪日なら地
元教会日本は頭をクールにして「福音を
伝える」ことを眞面目に考え実行に移す
ことですね。歓迎に浮かれる足を地につけ
(Y)等」を目標にしたい。(き)

◆明日orあしたということばが好きです。
昨日迄の酷い私は死に、あしたこそ美しく
精一杯その日を過ごしたいという願い
をこめて、明日という日を待つ。(I)

◆向にもしないうちに今月の時報が出来
上がっていた。他の編集諸子に賛美。

今年の指針。始めよければすべてよし。

始めが悪くても、あとは努力次第。(J)

◆近所、お友だちにもお見せ下さい。

本紙を福音宣教に役立たせるため、